

令和6年度 国立大洲青少年交流の家開所50周年記念事業
みんなでカヌープロジェクト
 ～あのときカヌーがしたかった！今みんなでやってみよう！～

1 ねらい

コロナ禍で集団宿泊活動が中止になるなど、国立大洲青少年交流の家のメインプログラムであるカヌー活動ができなかった青少年を招待してカヌー活動の機会を提供するとともに、国立大洲青少年交流の家開所50周年をみんなで祝うためのカヌー事業を実施する。



2 実施日 9月21日(土) 【平水】
 9月22日(日) 【ツーリング】

3 日程	9月21日(土) 【平水】	9月22日(日) 【ツーリング】
	12:30-13:00 受付	8:15- 8:45 受付
	13:00-13:30 開会式	8:45- 9:00 開会式
	13:30-16:30 カヌー活動(平水)	9:00-12:30 カヌー活動(ツーリング)
	16:30 閉講式・解散	12:30 閉会式・解散

4 活動場所 国立大洲青少年交流の家(愛媛県大洲市) 大洲市肱川(緑地公園他)

5 参加対象・募集人数

- ①集団宿泊活動が中止になるなどカヌー活動ができなかった青少年(小学5年生以上)とその保護者
- ②みんなでカヌー活動をして50周年をお祝いしたい方(小学5年生以上)
 1日目平水版100名程度、2日目ツーリング30名程度(カヌー経験者)

6 参加者数

1日目 57名 2日目 荒天により中止

7 活動内容と参加者の様子を含む

【平水】

参加者は指導者の話をよく聞き、親子や参加者同士で協力しながら活動することができた。活動の前半では交流の家でカヌーのこぎ方のDVDを視聴し、広場でパドル操作の確認をした。肱川に移動後実際にカヌーに乗り、基本的な操艇方法を習得した。参加者の技能差が大きく、恐る恐るカヌーをこぎ出したり、最初から上手にこいだりと参加者の実態は様々であったが、それぞれのペースで肱川の自然に親しみ、楽しんでいる様子だった。後半はミニツーリングを行った。ミニツーリングのゴール地点では、参加者全体でカヌーを隣り合わせてサークルを作るなどした。カヌーで大きな円ができた際には歓声上がるなど、驚いたり楽しんだ



りしている様子だった。最後は川で50周年記念横断幕を掲げ、記念撮影をした。

運営に当たって、全体の進行は国立大洲青少年交流の家の職員が担ったが、学生ボランティアや大洲市カヌー協会の協力を得て陸上看視や水上看視、指導の協力を行っていただき、安全管理についても万全の体制を整えて実施した。

また、開会式での挨拶などを通して開所50周年について触れ、開所50周年を祝う気運を高めた。

【ツーリング】

荒天によりダムの放流が想定されたため、前日に中止を決定した。

両日参加する予定だった参加者からは残念がる言葉も聞かれたが、昔の事業での参加経験や大洲での体験を語ってくださるなど、大洲での活動を懐かしむ様子が見られた。



8 参加者の声

事業後アンケート結果

9月21日【平水】

*満足：89.3% *やや満足：10.7% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- カヌーは重くて力を使ったけど、最後は上手にこげるようになって楽しかったです。
- 親子で参加し、最高の思い出ができました。
- 子供が悪天候でカヌーができなかったのが体験させることができ良かったです。
- 丁寧に教えてくれたので上手にできました。
- もう少し、長い距離を乗りたかった。

9月22日【ツーリング】 荒天により中止

9 事業の成果と課題

参加者同士交流しながら肱川でのカヌー体験を楽しむとともに、国立大洲青少年交流の家開所50周年を祝うことができた。

時間の制約もあり、事業後のアンケートでは「もっとカヌーに乗りたかった。」という意見も聞かれた。安全対策を万全にしつつも説明等をより分かりやすくシンプルにすることで、少しでも参加者がメインの活動に関わる時間を確保し、満足感のある事業を計画できるのではないだろうか。

今回は9月下旬の開催で、熱中症のリスクは高くはなかったが、適宜水分補給を呼びかけるなど、参加者の健康に留意しながら実施した。今後も活動内容や実施時期、参加者の特性に応じて健康への配慮を十分していかなければならない。

地域の自然環境や人材資源、長年の事業運営や研修支援によって得られた知見を生かして、今後も体験活動を楽しむ方々のために、より良い事業を計画・運営していきたい。



(担当：主任企画指導専門職 高木 啓吾)